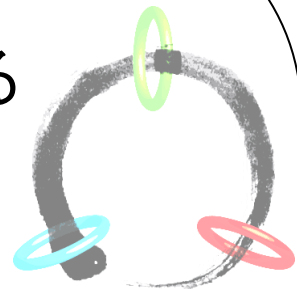


H24(2012)年度 GCOE特別講義6

科学者の社会的なあり方を考える ～科学番組制作の視点から



講師：村松 秀 氏

(NHKエデュケーショナル 科学健康部・専任部長)



場所：7/13:理学部 5号館 525号室(第4講義室)

7/26,7/27:理学部5号館北棟・363号室(第2講義室)



7月13日(金) 13:00-14:30, 14:45-16:15, 16:30-18:00

7月26日(木) 13:00-14:30, 14:45-16:15, 16:30-18:00

7月27日(金) 10:30-12:00, 13:00-14:30, 14:45-16:15 (談話会)

科学技術が現代社会に果たす役割がますます大きくなってきているのと同時に、科学者が社会において果たすべき役割もいっそう強くなってきている。そのため、市民が科学をどのようにとらえているか、社会は科学や科学者に何を求めているのか、そもそも科学者のあり方とはどんなものなのか、考えていく必要がある。この特別講義では、講師が番組制作の中で重要視してきた「わからなさ」というキーワードを元に、科学や科学者と社会とのかかわりについて受講者と一緒に考えていきたい。

1. 「わからなさ」と向き合う: 科学とアート
2. 環境ホルモン、漂着物から「わからなさ」を考える
3. 「科学の視座」と「文化の視座」
4. 科学技術社会と「わからなさ」
5. 科学論文捏造と「わからなさ」
6. 市民が科学情報と対峙するとき
7. 「スイエンサー」から科学思考を鍛える教育を考える
8. 科学者のあり方と「わからなさ」

【村松秀氏のプロフィール】 NHKで「ためしてガッテン」「NHKスペシャル」「クローズアップ現代」「サイエンスZERO」など、様々な科学番組制作を20年以上にわたって担当。現在は新しいスタイルの科学エンタメ番組「スイエンサー」の制作統括。取り上げてきたテーマは、科学論文捏造、環境ホルモン問題など多岐にわたる。科学ジャーナリスト大賞、バンフテレビ祭ロッキー賞、放送文化基金賞最高賞、地球科学映像祭大賞など受賞多数。

世話人：前野悦輝 (物1、内: 3783)